

民族間交流の壁とステレオタイプの再生産

中国における民族系大学におけるチベット族学生に焦点をあてて

XIE YOQING(北海道大学)

一、はじめに

1.1 研究背景

中国では、少数民族をめぐる政策の中で「中華民族運命共同体」という概念が強調されてきた。また、大学進学試験では少数民族受験生に対して「加点」をするなどの優遇政策が行われ、その結果、大学に進学する少数民族学生も増えてきたと言えるだろう。

1.2 先行研究

1.2.1 少数民族政策とそれによる問題点

少数民族政策により、政治、経済などの面で格差が生じてしまい、少数民族教育において少数民族文化より漢族文化が中心となり、少数民族の学生に自己不全感をもたらした（陳，2019）。「加点」などの優遇政策に対する漢族の不満の声も増えてきている（滕・馬，2005）。また、少数民族教育政策の下、少数民族学生の学力が低水準に留まっていることを問題視されている。学力などを原因とし、チベット族学生が大学で差別の対象となり、他の民族学生と一線を画しながら、自民族意識を強化する傾向がある指摘されている（Yang, 2017）。しかし、差別と民族間の壁が形成されるまでの経緯について十分な説明がなされていない。

1.2.2 文化モデルとソーシャルリアリティ

Gibson and Ogbu(1991)は、アメリカの移民および非移民を対象として学力パフォーマンス調査を実施し、この二つの集団は文化モデル¹が異なるため、教育システムに対する理解も異なっており、移民集団は教育を通し社会位置の上昇を目指しているから、学校での勉強を重視する一方、非移民集団は教育を不信頼し、学校での勉強を重視しない。チベット族にとって彼らの文化の核は「チベット仏教」である（月原，2008）。さらに、チベット族は生活する環境が漢族と違うし文化も違うから、この二つの民族のソーシャルリアリティ²も異なる。このソーシャルリアリティの違いも、チベットでの緊張情勢の源であると指摘されている（Yu and Kwan, 2020）。

1.2.3 ステレオタイプと民族間交流

漢民族文化を中心とする中国社会においては、少数民族に対するステレオタイプが形成されやすい（Heberer, 2004）。党・高・万（2016）によると、ステレオタイプの存在、特に否定的消極的なステレオタイプの存在は、少数民族は漢族と積極的に交流する意欲を抑え、漢族側はそれらのステレオタイプによって相手を認識し、偏見、差別に至る場合もあるから、民族間交流の実践に負の影響を与えている。しかし、こうした従来の議論は、飽くまでも理論的な議論としての性質が色濃く、調査に

¹文化モデルとは生活している社会で所属している団体と他の団体を理解するための手段である（Gibson, Ogbu, 1991）。

² ソーシャルリアリティとは文化モデルにより社会のあり方を認識することである（Gibson, Ogbu, 1991）。

基づいた実証的な研究の手前というべき場所に留まっている。よって、それが多くのケースに当てはまるとも言いきれず、詳細な事例研究の蓄積が待たれている。

1.3 研究目的

本研究では、中国の少数民族に対する教育政策を背景として踏まえつつ、チベット族学生と非チベット族学生の交流や、学生間の相互行為において存在する壁とステレオタイプの間隔を考察していきたいと考えている。

二、研究方法

調査の実施方法には次の2つを採用した。すなわち、①チベット族学生の日常生活の場面への参与観察と、②グループ単位および個人単位の半構造化インタビューであり、対象者をチベット族学生と非チベット族学生に分けた上で実施した。非チベット族に関しては、日本語専攻の大学3年生24名、および日本語専攻の大学1年生27名と教員1名を対象としたグループインタビューを実施し、加えて3名の非チベット族学生に個人インタビューを実施した。チベット族に関しては、文化産業管理専攻の大学3年生4名、および獣医学専攻の大学3年生11名を対象としたグループインタビューを実施し、8名に個人インタビューを実施した。

三、考察

3.1 非チベット族間相互行為

非チベット族学生の中では、元々チベット文化に関心を持っている人が少なく、小学校から中学校までの学校教育では他の少数民族文化、歴史についての科目もほとんどなく、チベット族に関する知識の情報源はマスメディアだけであった。したがって、非チベット族学生の間では、チベット族学生に対する認識も偏っており、党、高、万（2016）により、少数民族文化に対する理解が不十分である場合、民族ステレオタイプで相手を認識してしまうと指摘している。

民族ステレオタイプに関する議論は色々あるが何・趙・鄭（2011）によると、民族ステレオタイプとは、さまざまな面がある民族の文化、価値観及び行為などを、一つの属性、定義を総括してしまうことである。

本調査では、非チベット族学生の間で「暴力的」「清潔感がない」「うるさい」などの民族ステレオタイプが挙げられた。「暴力的」については、個人インタビューでもグループインタビューでも「先輩からチベット族学生は学校内で暴力を振る舞う話を聞いたことがある」という話があった。グループインタビューでは非チベット族教員も「他の先生から昔チベット族学生とイ族学生は暴力的な争い事があったと聞きました」と述べていた。

それらの否定的なステレオタイプは、非チベット族の先輩もしくは教員から伝えられたり、非チベット族の間で再生産されている。それらのステレオタイプの存在は確かに民族間交流にマイナスな影響を与えている。例えば、「チベット族学生は暴力的であるため、バスケットゲームでチベット族学生と一緒にやりたくない」ということを語った学生もいる。このように、再生産されているステレオタイプが、民族間交流の壁を維持し続けさせている。

3.2 チベット族間相互行為

調査先の大学では、学部の調整と宿舎の調整があり、元来独立のチベット族学学部とイ族学学部が解体され、専攻によって他の学部に編入された。各学部では、全員チベット族学生のチベット族クラス、全員イ族学生のイ族クラスとさまざまな民族、特に漢族がいる一般クラス、それぞれ設置されて

いる。一般クラスの宿舎では同じ民族の学生は同じ宿舎に住んではいけない。一般クラスの授業に参加した際、チベット族地域で育った3人の女の子は、ルームメイトでないにもかかわらず、仲良くいつでも授業で近くの座席に座っているし、一緒にご飯を食べているのである。つまり、交流できる機会は増えたにもかかわらず、何らかの民族間交流の壁が存在していると言えるだろう。

チベット族学生に対するグループインタビューでは、非チベット族学生から押し付けられたステレオタイプについてある程度理解している。例えば、「暴力について、漢族学生と会う時、隣から曲がっていくことをしている、なんか私たちが怖がっているような感じ」、「なんか漢族の学生はもし私たちとぶつかり合うと倒れちゃうように思われている感じ」と語った。「能力不足」について、「この前一般、イ族とチベット族クラスが一緒に行った活動で、一般クラスの学生たちはイ族とチベット族クラスのプランを全部否定していて、最後は我々の悪口も言った。確かに、漢族学生は我々より学力などの能力が高いけど、そういう風に扱われたのがやっぱり不機嫌だ」と訴えた。「不清潔感」については、「漢族いつもチベット族はシャワー浴びなくて、汗臭いイメージがあるけど、毎日シャワーしているよ。」などとチベット族学生が話した。

これら押し付けられたステレオタイプは、チベット族学生同士で話し合いをすることを通して、チベット族学生内部で再生産されている。また、それら否定的なステレオタイプの存在を意識することによって、チベット族学生の非チベット族学生と交流する意欲も抑えられている。例えば、「漢族学生は私たちに触られたら、暴力を振るうと思われるかもしれないので、我々も避けるようにしている」と、あるチベット族学生は語った。このようにして、民族間交流の壁は打破しにくくなる。

3.3 非チベット族とチベット族間相互行為

学校内部の日常生活においては、チベット族と非チベット族の相互行為は少なくないが、民族間の相互行為を通じた、非チベット族学生のチベット族学生に対するステレオタイプの再生産も見られる。例えば、「うるさい」について、「そもそもチベット族学生はルール守らないイメージを持ち、この前教室で勉強した時何人かのチベット族学生は途中入って、ゲームのことを大きな声で話して、注意しても聞いてくれなかったうるさくて失礼だと思う」の話から見ると、元来持つステレオタイプがチベット族との相互行為の中で改善するどころか、再生産されてしまっている場合もある。

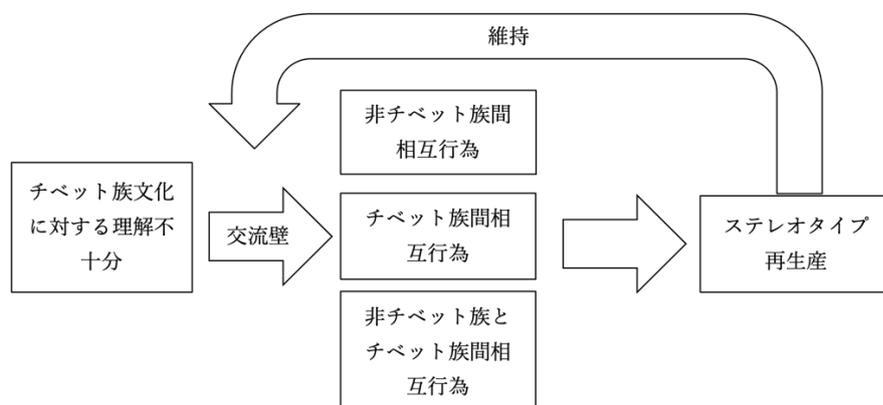


図1 ステレオタイプ再生産と相互行為の関係

四、おわりに

中国における少数民族政策によって、より多くのチベット族が主流文化への理解を深めることができるようになった。それは多民族社会の構築に役立っているが、他方、非チベット族学生によるチベ

ット族文化に対する理解が不十分であることや、加えて、チベット族学生と非チベット族学生の間には、政治的、経済的、学力的な格差も存在していることから、民族間交流の壁が形成されている。

調査地の大学では、学部再編によって民族間交流の機会が増えたにもかかわらず、チベット族学生と非チベット族学生の交流、および相互行為においては、依然として壁が存在している。

この壁が、民族系大学内部で存在し続けているのは、学内におけるステレオタイプの再生産に原因があると考えられる(図1参照)。このステレオタイプの再生産は、三つの側面含んでいる。一つは、非チベット族同士の相互行為によるステレオタイプの再生産である。非チベット族学生によるチベット族学生に対するイメージは、主に先輩や教員からもたらされる場合が多い。二つ目は、チベット族学生同士の相互行為によるステレオタイプの再生産である。チベット族学生自身も、ほかの民族から持たれているイメージを意識しており、チベット族学生同士で互いにこれらのイメージの不相当性と愚痴を訴えることもある。三つ目は、非チベット族学生とチベット族学生の学校の日常生活での相互行為によるステレオタイプの再生産である。

つまり、本研究の調査では、ステレオタイプが存在し続けているのは、非チベット族学生間、チベット族学生間、および両民族間の相互行為で再生産されているためであり、それが民族間交流にマイナスな影響を与えており、その結果として、民族交流の壁も依然として存在しているということが示唆された。

五、参考文献

- 月原 敏博, 2008, チベット文化の核とアイデンティティ, ヒマラヤ学誌 : Himalayan Study Monographs 9 17-41, 京都大学ヒマラヤ研究会
- 陳烏日汗, 2020, 中国における少数民族教育—その背景と課題—, 名古屋大学大学院教育発達科学研究科紀要. 教育科学 66(2) 73-79
- 何莹, 赵永乐, 郑涌, 2011, 民族刻板印象的研究与反思, 《贵州民族研究》(6) 21-26
- 党宝宝・高承海・万明钢, 民族刻板印象:形成途径与影响因素, 促进民族交往交流交融的社会心理学研究-以内地民族班学生交往为例”, 西南民族大学学报(人文社会科学版)(5) 202-206
- 滕星, 马效义, 2005, 中国高等教育的少数民族优惠政策与教育平等, 《民族研究》(5) 10-18
- Gibson, Margaret A., John U. Ogbu, 1991, *Minority Status and Schooling: A Comparative Study of Immigrant and Involuntary Minorities*, Garland Pub
- Heberer, Thomas, 2004, “Some Considerations on China’s Minorities in the 21st Century: Conflict or Conciliation”, *Senri Ethnological Reports (SER) NO. 50 1-31, National Museum of Ethnology Repository*
- Yang, Miaoyan, 2017, *Learning to be Tibetan: The construction of ethnic identity at minzu University of China*, Lexington
- Yu, Fu-Lai Tony, Diana S. Kwan, 2020, *Social Construction of National Reality: Taiwan, Tibet and HongKong*, Lexington